

MHKS Presents Heart Warming Concert No.61

仙台で聴く♪

小森輝彦 I

～七夕の黄昏に～

ピアノ 田原 さえ



プログラム

R.シューマン《リーダークライス》Op.24

G.フォーレ《めぐり合い》Op.21-1

G.ビゼー オペラ《カルメン》より 他

2024 **8.6** (火)

16:00 開演 (15:30 開場)

コンサートサロン Verde

カワイ仙台 4F / 仙台市青葉区一番町 4-3-28

料 金：一般 3,000円 高校生以下 2,000円
(当日はいずれも 500円増し)

お問合せ：MHKS Tel:070-6625-9244 / Mail:info@mhks.jp

主 催：(一社)ミュージックプロデュース MHKS

後 援：(株)河合楽器製作所、河北新報社

助 成：(公財)仙台市市民文化事業団

プレイガイド：藤崎、カワイ仙台



Profile

小森輝彦 バリトン

Teruhiko Komori

日本人初のドイツ宮廷歌手。プラハ州立歌劇場『椿姫』ジェルモン役で欧州でのデビュー後、独アルテンブルク・ゲラ市立歌劇場専属第一バリトンとして12年間活躍。その傍ら、ザルツブルク音楽祭をはじめヨーロッパ各地にて客演し、演じた役は70を超える。

近年では、ベオグラード・フィルと共演するなど国際的にも活躍を続ける他、東京二期会『ローエングリン』テルラムント、『ファルスタッフ』フォード、『ルル』シェーン博士、『こうもり』アイゼシュタイン、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『平和の日』包囲された街の司令官役（日本初演）、『午後の曳航』塚崎竜二（改訂版日本初演）、日生劇場『リア』リア、新国立劇場『沈黙』フェレイラ、神奈川県民ホール『金閣寺』溝口などに出演。充実期を迎えた演奏に熱い期待が寄せられている。

ドイツ在住時から現地で高く評価されたリート歌手としての活動も盛んに行い、国内でもその深い文学的解釈に裏付けられた表現力で聴衆を魅了し続けている。2019年に井出徳彦とリリースした初アルバム「R.シュトラウス歌曲集」はレコード芸術誌で準特選盤。2017年には歌唱におけるメロディーと明瞭な発音の両立を研究する「歌唱発音研究隊～KHK～」を立ち上げ、様々な言語の歌唱法について講座を企画。自らも講座や公開レッスンをを行い、後進の指導にも精力的に取り組んでいる。

二期会会員。二期会幹事。東京音楽大学教授。日本R.シュトラウス協会常務理事。日本声楽発声学会理事。

仙台で聴く

小森輝彦 I

～七夕の黄昏に～

田原さえ ピアノ

Saée Tahara

仙台市出身。武蔵野音楽大学・同大学院を経て、1990年ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽大学修了、オーストリア政府芸術修士を取得。同大学ではピアノ室内楽及びドイツ歌曲の解釈と伴奏法を専攻し、1988年にはザルツブルグにおいてG.スゼー氏のリサイタルでの伴奏者に抜擢された。帰国後はオーケストラとの協演をはじめ、ソロ、室内楽、伴奏と幅広い演奏活動を行っている。1992年以来、東京と仙台とで行うリサイタルは17回を重ねた。また、ザルツブルグでのI.ハッセ（フルート）とのデュオ・リサイタルや、ベルリン弦楽四重奏団、P.L. グラーフとの共演など国際的にも活躍中。2008年6月にはプラハ放送交響楽団との協演も行った。また、公開レッスンなどでの通訳も数多くこなしている。1978年、第22回全東北ピアノコンクール第1位及び文部大臣賞受賞。平成14年度宮城県芸術選奨新人賞及び平成29年度宮城県芸術選奨受賞。平成15年度には仙台市市民文化事業団主催による「Classic Live For You」のプロデュースを手掛けた。第2～8回仙台国際音楽コンクールでは、企画推進委員としてチャレンジャーズライヴのコーディネーターを務める。また、仙台バッハセミナーの主宰やミュージックプロデュースMHKSを立ち上げるなど、仙台を中心に様々な音楽活動を展開し、若手の育成にも力を注いでいる。fm いずみでの番組『be A-live』では、毎月1回ゲストとして「田原さえの音楽さんまい!」のコーナーに出演中。

2010年12月に初のソロCD「それは、懐かしい時の始まり」を、またP.L. グラーフ氏とのライヴCD「コンチェルティーノ」(2013年6月)、「リサイタル」(2018年12月)、「LEGEND IN FLUTE」(2022年4月)をリリース。同氏の著書『フルートの響きを豊かにする52の質問』翻訳(2021年7月)。

現在、昭和音楽大学講師。(一社)ミュージックプロデュースMHKS理事。仙台バッハセミナー代表。

